

進路だより

箕輪進修高校 進路指導室

2011.4.7

No. 2

昨年度就職戦線の実態と今年の展望

ここ2年続けて大変厳しい就職戦線が続いていることはすでに色々な機会にお伝えしてあります。今年も先の地震の影響もありその厳しさは変わらないと思いますので、今年の就職戦線に向けての覚悟をしてもらうためにも、もう一度具体的な事例を交えてお伝えしておきましょう。



第一次試験では、就職希望者52人の内半数の26人が不合格となってしまいました。その理由のほとんどが「基礎学力不足」と「コミュニケーション能力不足」です。また、一次試験の時点で赤点等の事情により試験が受けられなかった者が10名弱いました。不合格になった生徒がその後決まったのは、10月1人、11月6人、12月9人、1月3人、2月2人、3月1人で現在未内定者が2人、就職が決まらないために技専への進学に回った生徒が4人、当面アルバイト等で過ごす予定の生徒4人等です。2回以上不合格となった生徒が7人いました。

本校では5段階評定で4以上の生徒が一次試験で5人不合格となり、しかもその生徒達の多くはその後2回以上不合格となってしまいました。その理由は真面目だがおとなしくコミュニケーション能力不足でした。

就職支援員の方に多くの企業を回り求人開拓をしていただいたのですが、20社に1社求人があるかという状況で、なかなか求人してくれる企業が伸びず、一時期は卒業式を過ぎて10人以上は就職が決まらないのではと心配しました。苦労してせつかく新しい求人を開拓しても、試験を受けてもなかなか受からないということが続きました。そんな状況に係としてどれほど歯がゆさを感じたかしれません。要は他校の生徒との競争に勝てなかったのです。いうまでもなく試験は本校の生徒だけの競争ではありません。他校の生徒との競争に勝てる力を持っていない者は結局いつまでも進路が決まらないということになってしまいます。

不合格となった生徒本人にとってそんな状況がどれほど精神的に苦痛であったか知れないでしょう。周囲の友人は次々に決まっていくのに、いつまで経っても決められない状況は本人にとっては精神的にかなり追いつめられたものがあったはずで。

今年は就職希望者が本校では昨年より30人以上、上伊那地区全体では70人近くが増えそうです。大震災の影響がこれから日本経済にとって大きな足かせとなっていくでしょう。東北地方の被災地の企業が壊滅状態のために一部の部品供給がストップしてしまい、しかもこれから夏場にかけての電力不足による計画停電により、企業の生産活動に大きなダメージを受けることは明かです。長野県は関係ないだろうと思うのは大間違いです。一つの製品を作るのに日本各地で作られた部品が使われるのです。その内の一つでも欠ければ当然他にも影響するのは明かです。ここ数年間は日本の経済にとって相当大きなダメージを被ることを覚悟しなくてはならないでしょう。当然求人に大きな影響は出てくるはずで。

昨年同様今年の就職戦線も相当厳しさを覚悟しなくてはなりません。是非一人でも多くが、希望する進路が実現できるよう、今から決意新たにして「基礎学力」をしっかりと身につけ、かつ「コミュニケーション能力」を付けるよう心がけて欲しいものです。